

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

おしゃべりは元気の源

今年90歳になった私の母は、おしゃべりが大好きです。毎日、顔を合わせると一方的に自分の話をします。また、お客さんが来て知っている人だと、昔の思い出話を始め、長時間の足止めをすることもありますが、私は時々、そんな母のおしゃべりを面倒に思い、つつい素っ気ない返事をしてしまうことがあります。

そんな母に、「地区で定期的に開催されている茶話会に参加してみたら」と声を掛けてみました。この会には、地区内の高齢者の方々がたくさん集まり、母の顔見知りの方もおられるので、いっぱいおしゃべりができて喜んでくれるのではないかと思います。しかし、母の返事は「行かない」の一言。理由は「同じ年代の人が来ず、話し相手がいないから」でした。実際、参加者の大半が70代の方で、母と同年代の方は参加していません。このような年代の違う人たちの会話には入っていきにくいと言うのです。こうし



て人は高齢になるほど、家に閉じこもりがちになっていくのかもしれませんが。何となく母の寂しい思いを感じました。

60代で勤めに出ている私たち夫婦や若い息子夫婦にとって、留守を守ってくれ、幼い孫の世話をしてくれる母には感謝しかありません。母にとって、私たち家族が一番の話し相手になることはもちろんですが、より生き生きと元気に過ごしてもらうために、その地域に出て多くの人とつながり、会話を楽しんでほしいです。きっと母の元気の源になると信じています。

9月から各町で人権学習会が開催されています。世代を越え、地域の方々が会話を通してつながり、会話の場が減った母のような人にも思いを寄せる機会にさせていただきたいですね。



きつね塚古墳全景



きつね塚古墳石棺 (兵庫県指定文化財) / 石室内は見学不可



きつね塚古墳は丘陵斜面に築かれた直径11m、高さ2.5mほどの円墳です。埋葬主体部は南向きに開口する横穴式石室で、羨道(墓道)は長さ3.6m、幅1m、高さ1.5mで、玄室(墓室)は長さ4.1m、幅1.4m、高さ1.6mを測ります。内部には組立式家形石棺が納められ、長さ1.67m、幅0.81m、高さ0.83mで、ふたの形態は厚さが薄く、頂部の平坦面は広く、斜面も短く緩やかで縄掛突起もなく、家形石棺としては最も退化した形態です。副葬品の須恵器の年代から約1300年前の7世紀末〜8世紀初頭の制作と特定されています。石棺は家形石棺の研究上、貴重な資料で兵庫県指定文化財となっています。

きつね塚古墳 (明楽寺町)

ふるさとの魅力再発見 しわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館 (☎235992)

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —



西脇市長 片山象三

高校生の活躍に称賛

9月4日に「西脇市スポーツ賞」の表彰式を行いました。この賞は、全国大会や国際大会で優秀な成績を収めた方にお贈りしていますが、今回は、全国高等学校総合体育大会において、素晴らしい成績を収めた3名の高校生に贈呈しました。西脇工業高校陸上競技部の新妻遼己さんと山田大智さん、そして、西脇高校のダウスト絵麻さんです。

新妻さんは同大会陸上競技大会の5000mで優勝。33



「西脇市スポーツ賞」を受賞された選手と関係者の皆さん

年ぶりに日本人選手がこの種目で優勝するという快挙を成し遂げました。西脇工業高校は「長距離」というイメージですが、今回、優勝した山田さんは5000m「競歩」で優勝。長距離を走っていた山田さんに競歩を勧め、今回、優勝に導いてくれたのは、永井監督の一言であったと語ってくれました。

また、西脇高校のダウスト絵麻さんは、同大会ヨット競技大会において2年連続で出場し、今回、初めて優勝を獲得。絵麻さんは、西脇市で生活をしながらお父さんの影響で小さなころからセーリングに触れていたそうで、今では海面の色などから風を読むことができるそうです。

3つの異なる種目ではあります。西脇から3人もの高校生が全国の大会でトップの座に輝いたことは、大変栄誉なことです。今後の活躍に期待するとともに心からエールを送りたいと思います。

みんなでまちづくり—市民の皆さんのまちづくり活動—

地域で子どもを支えるまちづくり

～認定NPO法人みなみ会の紹介～

みなみ会は、「みんなで西脇の子どもや地域を見守り、未来を創る会」をスローガンに、さまざまな活動を行っています。

その一つとして、夏休み期間中に市内12カ所で元教員や大学生、西脇高校生と協力して、子どもの学習支援「宿題にチャレンジ!」を実施。小学生340人が参加しました。



絵画教室や読書感想文教室も行い、多くの児童が参加しています。また、10月19日には、地域コミュニティづくりのため100円買楽商店街に輪投げゲームを出店する予定です。



今後も地域に愛される活動を目指し、交流の輪を広げようと日々奮闘しています。

西脇の自然 619

ベニシジミ

しじみちょう科



1.5cm〜2cmほどのシジミチョウの仲間、3月〜11月まで見られます。幼虫はスイバなどを食べ、幼虫のまま越冬します。

特に「春型」の個体は名前のとおり翅の表側(翅を広げたときに見える面)は赤みがかった鮮やかなオレンジ色ですが、6月〜9月にかけて出てくる「夏型」の個体は表側のオレンジ色の部分が狭くなり、黒っぽい色になります。秋には春型と夏型の両方が見られます。

過去には30円切手の絵柄にも採用されましたし、市内でも各地で見られ、「見たことがある」と思った方も多いのではないのでしょうか。これからもよく見られる身近なチョウでいてほしいと思います。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】